

牛久自然観察の森へ行ってきました。～その 7. 草本、きのこ

1. ひっつき虫の仲間



18 号で動物に食べられて運ばれる木の実の話をしてきましたが、草の実の中には動物の毛皮などに引っついて運ばれるものがあります。左の写真の左側はチヂミザサといって、実から粘液を出して(右上の写真)引っ付きます。同じ写真の右の方にはヒナタイノコヅチ。こちらはフックで引っ付きます。そして右下の写真はヌスビトハギ。フック状の毛で引っついて運んでもらいます。

2. 秋を代表する草花



ツリフネソウ



ツリガネニンジン

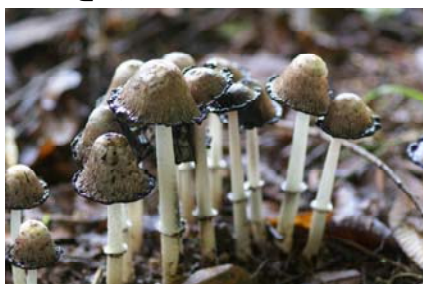


セイトカアワダチソウ(黄色)
とヨウシュヤマゴボウ(紫黒色)



バアソブ

3. きのこ



ササクレヒトヨタケ

始めは、表面がささくれだった白い卵型で発生し、傘が開くと一夜で傘の周縁から黒くなって溶けだし、インクのように落ちて全体が溶けてしまいます。

(牛久自然観察の森 解説板より)

[理科支援員 宮内]